

主任委員による序

南台湾希望の星－南科

行政院国家科学委員会 主任委員 陳建仁

世界経済フォーラム(WEF、The World Economic Forum)が2005年9月に発表した「2005-2006年全世界競争力報告書」の中で、今後の経済発展を示す「成長競争率」において、台湾は世界第5位に選ばれており、中でもハイテク関係の競争率は高く第3位となっている。WEFによれば台湾は特にハイテクや革新面において優れた成果を挙げており、特に、企業の能力吸収や産学協力、携帯電話の普及やインターネットサービスでの最新技術等において秀でていると評価されている。台湾が科学技術面において非常に強固な実力を有するからこそ、台湾の産業界全体を新たな世紀へと推し進めていけるのであり、科学工業園区の発展はその最も良い実例だと言える。

南科の成績は皆が認めるものであろう。2002年私が国科会副主任委員を担当していた時、南科進駐許可メーカーは93社、売上総額3,728億円、創出就業人口15,071人であった。3年という短い期間のうちに南科は飛躍的に成長し、2005年では進駐許可メーカーが178社、売上総額12,656億円を超え、創出就業人口も41,000人を超えている。また、南科の成果はこれだけでなく、オプトエレクトロニクス、集積回路産業がまるで磁石の呼応効果の如く引き合い、関連する製造設備や重要パーツ材料業者などが次々と園区内進駐することとなった。産業界の川上・川下や周辺製造業が次々と集まり、より完備された産業集落を作り上げている。特に、南科のオプトエレクトロニクス産業の発展は世界的に見ても一歩先を行ったものである。南台湾のハイテク産業の重鎮となるべく、南科はオプトエレクトロニクス産業、集積回路産業だけでなく、今後の発展がますます期待されるバイオテクノロジー産業や電信産業にも力を入れている。

南科は、その運営成績において優れているばかりか、園区の環境に対しても十分な配慮がなされており、環境設備のために必要な建設工事が休み無く進められている。高速鉄道の減圧工事はメーカーに更に安心な生産環境を約束する。コミュニティーセンターや健康生活館の外部委託経営の成功は南科の人々に更なる利便性と快適性を与えるであろう。また、国立南科国際実験高等学校の推進はハイテク技術者を始めとして南科に働く家族の教育問題を解決するであろう。行政サービスは園区外にまで広がり、近隣の人々を呼び込んだ多くの親睦活動が行われており、多くの地域住民の参加を得ている。こうした地域住民との交流は、南科の発展に対する近隣地域住民の期待と同意の表れと捉えることができるであろう。

今日、台湾の科学技術産業は新たな競争相手として発展途上国といった後進からのプレッシャーにさらされている。こうした国々は廉価な労働力や原材料の供給によって、確実に台湾産業に脅威を与えている。このような局面を打破するためには、科学技術産業において一つの覚悟が必要であろう。過去において「量」を勝ちとした考え方を改め、「Made in Taiwan」から「Made by Taiwan」、さらには「Design by Taiwan」となるよう、製品に付加価値をつけることによって、国際市場での競争力に磨きをかける必要がある。科学工業園区でのハイテク産業はこうした高付加価値産業転換の礎となることを希望する。私は南科が量産化体制を確立して成長すると同時に、高付加価値追求にむけた研究開発にも重きを置くよう期待する。そして世界のハイテク産業界において重きをなす確固たる地位を築いてほしいと強く願う。

陳建仁

